

美しく力強い自然とともにある暮らし
半島各地に息づくふるさとの祭り

この土地のことを知り、
もっと身近に――

知って

能登応援企画

の と の こ と

ミニ企画展

『能登の夏、キリコ祭り』

2024. 8. 6 [火] ~ 9. 29 [日]

チャリティー映画上映会

『一献の系譜』『ひとにぎりの塩』

9. 11 [水] / 14 [土] / 26 [木] / 29 [日]

会場

せんだい3.11メモリアル交流館 (地下鉄東西線荒井駅舎内)

10:00~17:00 / 延長開館日 (~19:00) 8.11 [日]、9.11 [水]

入場無料

休館日 毎週月曜日 (祝日の場合は翌日)



せんだい3.11メモリアル交流館

Sendai 3/11 Memorial Community Center

2024年1月1日に発生し、最大震度7の揺れを観測した「令和6年能登半島地震」(マグニチュード6.6)は、能登を中心とする北陸一帯に大きな被害を及ぼしました。

震源となった能登半島は、石川県の12市町・富山県の1市の13市町から成り、南北に長く、日本海に突き出たような形が特徴的です。

美しい里山・里海が見られることでも知られ、伝統的な祭礼や、昔ながらの知恵や技術が数多く伝承されている土地でもあります。能登応援企画「のことごと」では、ミニ企画展とドキュメンタリー映画の上映会を通して、能登の各地に息づく祭り、風光明媚な景色のほか、伝統を継承し、さらに工夫を重ねる人びとの営みを紹介します。

仙台市から600km以上離れた能登について知ること、その土地のことや人をもっと身近に感じてほしい、被災された皆さんが一日も早く穏やかな日常を取り戻せますよう、応援し続けるきっかけにしたいだけなら幸いです。

せんだい3・11メモリアル交流館

ミニ企画展 能登の夏、キリコ祭り

夏にこの地を訪れば、どこかで必ず巡り合える。そんな能登を代表するお祭りが、「キリコ祭り」です。「キリコ」と呼ばれる巨大な燈籠とともに、住民が威勢よく声を上げながらまちを練り歩く、活気あふれるこのお祭りは、七尾市と志賀町以北の各地で年間約200回行われるといえます。豪壮で力強いものから優美で艶やかなものまで、キリコの形も祭りの形式も地域ごとさまざま。今なお盛んに行われている祭りを通して、能登の特色や魅力を紹介いたします。(キリコ祭り映像/能登のステキ写真展 ほか)



期間

2024.8.6[火]
~9.29[日]

場所

せんだい3.11メモリアル交流館
2階 展示室

チャリティー映画上映会

能登に暮らし、伝統を引き継ぐ人びとの営みをカメラに収めたドキュメンタリー映画2本を上映。入場無料で、来場した方のお気持ちで募金いただき、全額を令和6年能登半島地震災害支援基金として「公益財団法人ほくりくみらい基金」に寄付します。

会場

せんだい3.11メモリアル交流館
2階 スタジオ

要申込

9.6[金]10:00より
電話またはメールにて
(先着40名/メールの場合、氏名・人数・日時を記載)

『一献の系譜』 2015年公開/103分
ナレーション:篠原ともえ、監督:石井かほり

日本酒造りの技能集団「能登杜氏」は、農閑期の冬、現金稼ぎのために働きに出たのが始まりでした。現在の吟醸酒の礎を築いた「能登杜氏四天王」と、彼らを師とする現役後輩杜氏たち——能登の風土が醸し出す、酒造りの世界を追ったオムニバスドキュメンタリー映画。奥能登地域の農家に古くから伝わる「あえのこと」(“田の神様”を家に迎え、お風呂や食事でもてなす儀礼)のシーンも見どころ!

『ひとにぎりの塩』 2011年公開/90分
ナレーション:はな、監督:石井かほり
セブ国際ドキュメンタリー映画祭 2013 最優秀撮影賞受賞

“手塩にかける”の語源ともいわれる「揚げ浜式製塩」は、能登半島の最北部「奥能登」で江戸時代から一度も途切れることなく続けられてきました。手作りの塩にこだわり、日夜塩づくりに励む能登半島の先端・珠洲市の浜士(塩職人)の姿を追ったドキュメンタリー映画。

日時

9.11[水] 18:30~
9.14[土] 10:00~

日時

9.26[木] 10:30~
9.29[日] 10:00~

9.14と9.29の上映後には
ミニ交流イベントもあります
(約30分/自由参加)

能登ってどんなところ?
映画の余韻にひたりながら、
能登について更に深掘り。

9.14 現地の様子とおはなし
佐藤敬行さん(能登半島支援に関わる日本酒好きランナー)
9.29 能登の塩おむすびを食べながら感想トーク
門間由紀子さん(石川県を愛する東北大学講師)